参考資料2

＜政治参加意識の向上に向けた大学における取組事例＞

松山大学の取組

①キャンパス内に期日前投票所を設置

松山市選挙管理委員会と連携し、平成25年7月の参議院選挙において、大学内（松山大学文京キャンパス）に全国初となる期日前投票所を設置。以降の選挙においても同様の取組を行い、若者の投票率向上に貢献。

【期日前投票所を設置した選挙】
- 平成25年7月　参議院議員通常選挙
- 平成26年4月　松山市議会議員選挙
- 平成26年11月　愛媛県知事選挙・松山市長選挙
- 平成26年12月　衆議院議員総選挙
- 平成27年4月　愛媛県議会議員選挙

②学生スタッフ「選挙コンシェルジュ」の活躍

松山市選挙管理委員会が、投票促進活動に「若者（大学生）の視点」を取り入れようと、松山市議会議員選挙を前にした平成26年2月に大学生スタッフ「選挙コンシェルジュ」を認定。主に若年層の投票率向上をめざし、選挙啓発に取り組んでいる。

【主な選挙コンシェルジュの活動】
- 選挙CM作成（市内ストリートビジョン、選管公式HP及びFacebookでも放映）
- 選挙公報をPRするための「選挙カフェ」の設置
- 大学内での街頭啓発活動
- 大学期日前投票所の設営補助
- 上記の活動などを市選管facebookや自身のSNSで拡散

取組の成果

★平成26年4月の松山市議会議員選挙後の松山大学生のアンケート結果★

○投票率：64%（20代前半の松山市の平均は27%）　※松山市有権者のみ集計

○選挙公報に目を通した割合：19%→39%に上昇

※市議選前のアンケート結果（学生60人程度）との比較

○大学内への期日前投票所の設置は、選挙や政治への関心を高める効果がある、どちらかといえば効果があると思う　90%

★20代前半の投票率★

○平成25年7月参議院議員選挙

他の年代は市・県・国ともにすべての年代が下がるなか、松山市の20代前半は＋2.72ポイント

○平成26年4月松山市議会議員選挙

ほとんどの年代の投票率が下がるなか、20代前半は＋0.63ポイント

鹿児島大学の取組

【キーワード】

○鹿児島大学と鹿児島市の連携協定　　○大学生による主体的な選挙啓発組織の支援

①大学生が行う模擬投票を用いた授業（県明推協）（＊27年7月にも実施）

事前に模擬選挙公報を配布し、より選挙に近い雰囲気をつくる

鹿児島県知事模擬選挙を実施（候補者は県選挙管理委員会と連携をした学生による選挙啓発サークル「STEP」のメンバー）

選挙演説→開票作業→当選を受けての演説

＊すべて学生が模擬投票に関わる

②地域青年と学生の話し合い学習

＊「かごしま教育未来会議」の開催

大学生が中心となって、地域社会の青年たちとともに、鹿児島のまちづくりについて考える会を開催。

＊地域青年の話し合いに大学生たちが、SNSを利用して意見にコメントをしたり、直接質問を行うなど、会議に参加。

中央のスクリーンにSNSを用いた学生の意見が映し出される

大学生の主体的な選挙への関わりを促進

③大学生による選挙啓発「選挙コンシェルジュ鹿児島」（鹿児島市選管）

選挙啓発のCMを作成（桜島編・市役所編）▸・学生が企画・編集

→市のHPと動画サイトなどにアップ

鹿児島市選挙管理委員会が選挙コンシェルジュ鹿児島を任命

選挙マナーを啓発するための5か条を作成

＊「**若者の集まる場所での啓発**」

→大型商業施設や鹿児島中央駅付近、学食など

報道機関との連携

④大学による期日前投票所の設置（鹿児島大学）

2015年4月8,9日の2日間で実施。

選挙事務としても大学生たちが参加。

投票所の設置から、投票所周辺での啓発作業まですべてを行う。

＊投票者数は628名

学生だけでなく、大学職員や大学の地域住民、大学 OBOG など、様々な人が利用する。

＊投票所は、大通りに面した場所に設置し、地域の人たちにも分かりやすい場所に設置

大学生への選挙啓発を地域社会全体で支援する体制づくり

メディア・選管・大学・地域社会・行政・大学教職員など

鹿児島大学における選挙啓発の取組

- 模擬投票の実施については、鹿児島県・鹿児島市選挙管理委員会、大学生の選挙啓発組織、明るい選挙推進協議会などとの広い連携によって行っている。
- 選管職員や明るい選挙推進協議会、地域の活動にふれることで、選挙や政治に対する関心を高める。
- 学生が選挙教育に主体的に参画するための系統的な実践を重視する。
- 学生のキャンパスライフは「生活実現の場＝政治と生活をつなぐ場」である。

【取組の成果】

- 大学における選挙教育の授業実践モデルの提起→**学生による模擬投票**
- 平成26年度に鹿児島市選管が行った鹿児島大学の学生（約300名）への調査のなかで、**約80%**が大学構内の期日前投票所を利用したいと述べていた。 →**期日前投票所の実現へ（投票数628名：2日間）**
- 大学生による主体的な選挙啓発組織の創設へ

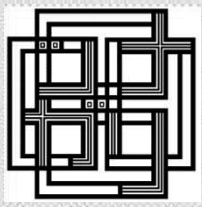
→**選挙コンシェルジュ鹿児島・かごしま教育未来会議実行委員会**など

＊大型商業施設・鹿児島中央駅・中央食堂など若者が集まる場所においての啓発活動

四日市大学の取組

取組の概要

四日市市においても、若年層の投票率は他の世代に比して低い傾向がある。こうした状況を打破しようと、学生たちが自分たちの世代（若者世代）の投票率の向上を目指して2010年12月に始めた活動が四日市市選挙啓発学生会「ツナガリ」である。グループ名の「ツナガリ」には、若者と選挙のツナガリ、選挙で選ばれる代表とのツナガリ、次の世代・未来へのツナガリなどの思いが込められている。
啓発に使う資材は、四日市市選挙管理委員会の予算で用意いただいており、定期的に、政治学担当の教員および四日市市選挙管理委員会事務局職員を交えたミーティングも行い、若年層の投票率の向上のための効果的な方策を検討し、実践している。



ツナガリ

これまでの主な活動①　―大学祭での啓発―

・大学祭ステージでの啓発
・大学祭での模擬投票の実施
　オリジナルタンブラー「選挙にイッタンブラー」を
プレゼントすることで、多くの模擬投票参加者を確保。

これまでの主な活動②　―キャッチコピーの作成―

四日市市選挙管理委員会との合同会議において、学生からのアイディアにもとづき「投票で　みせる街への　愛着度♡」と決定。
選挙管理委員会も、このキャッチコピーを使って啓発活動を実施している。

これまでの主な活動③　―飲食店とのタイアップ―

メンバーの顔写真入りオリジナル投票啓発ポスターを作製し、若者に人気の飲食店や、若手経営者が経営する飲食店に掲示を依頼。

これまでの主な活動④　―Facebookページの開設―

四日市市選挙管理委員会と協力して若者の利用の多いSNSで、選挙や投票に関する情報を発信。

これまでの主な活動⑤　―バレンタイン啓発―

選挙をチョコっとでも意識してもらいたいと考え、中高生のボランティア団体ユナイテッドチルドレンと協力して、バレンタインデーとホワイトデーに、啓発メッセージを入れたチロルチョコを街頭で配布した。
ヴェロタクシー（自転車タクシー）を啓発に使ったことで、多くの若者も足を止めてくれた。